

大会報告 (村越 真)

1月12日：昭和の森大会

1月だというのに、暖かく汗ばむような陽気だ。とりわけマイナス25度のヘルシンキから帰ってきたばかりの僕には、日差しと気温が南国にいるかのような錯覚すら感じさせる。千葉市の昭和の森森林公園の明るい芝生広場の真ん中にある緩やかな窪地の中に、この大会の青空会場があった。

この大会は、近年の国際的なエリートクラスの動向を受けて、完全に「見せる」ことを意識した大会であった。午前中に一般クラスのレースが終わった後、12時にエリートクラスのスタートが始まった。コースは約8km。芝生広場の中にあるスタート・ゴールを中心とした4つのループを回るコースだ。しかも、全選手が同時スタートである。選手は当然10-15分ごとにゴールに帰ってき、次のループに出て行く。ライバルの動向も考慮に入れつつレースをするという、普段の個人戦では味わえない作戦と競り合いの醍醐味を味わえるのがこの大会だ。

男子クラスでは、最初のループから山口がトップに立っていた(もちろんループを回る順番は違うので、レース中そのことが全ての選手と観客に自覚されたわけではない)この日は松澤、鹿島田、加賀屋、高橋といったナショナルチームの上位選手もほぼ勢ぞろいしていたが、山口のタイムは圧倒的だった。確かに他の選手にもミスはあった。しかし決して悪いではなかった。その中で山口は2分以上の大差を松澤につけ、圧勝した。

女子は、塩田と宮内の一騎打ちとなっていた。ナビゲーション要素が少ない公園ではスピードがものを言う。観客の前を走る選手の中で宮内と塩田の走りは群を抜いていた。3週目が終わるまで塩田がリードしていたものの、最後で塩田にも疲れ

が見えてスピードが落ちたところを、宮内が秒差で逆転した。

2月2日：森林公園大会

冬枯れの雑木林には明るい光が差し込んでいた。場所によっては、笹藪になっているが、思わず走り込みたくなるような白い林も広がっている。丘陵の尾根には、旧鎌倉街道の名残である、みぞが残っている。この道を「鉢の木」の主人公も駆け抜けたのであろうか。2月2日のスコード主催のミドル大会は、こうした武蔵野の面影の残る国営武蔵丘陵森林公園の中で開催された。

1月12日の大会同様、この大会の会場も気持ちのよい芝生広場である。午前中に30分弱の予選を勝ち抜いたエリートが、既にレースを終えた他のクラスの選手が見守るなか、午後の決勝を迎えた。午前中勝ち抜いたのは、ほぼ順当なメンバーである。午後の決勝では、午前中のタイムの悪い順にスタートするので、当然有力選手は後半のスタートとなる。レースが進むに連れて、トップタイムが次々と更新されていく、中には秒読みとなるきわどいタイミングで選手がフィニッシュに駆け込んでくることもある。

午前中のタイムが今ひとつだった鹿島田が、いいタイムでフィニッシュする。中間でフィニッシュエリアを通過する時にはトップだった村越は40秒おおよぼ2位。その鹿島田のタイムに今季特にミドルやパークで好調の山口が迫るが、7秒及ばず。今現れなければ鹿島田優勝決定と思われた直前、ラストスタートの加賀屋が現れ、力強くフィニッシュ。鹿島田のタイムを秒差で上回るタイムであった。結局、鹿島田が2位、山口が3位であった。

女子は順当に塩田が優勝。2位は

元木(友子)3位は田島利佳であった。

公園という条件下でも、見ごたえあるレースができることが確認できたイベントであった。

昭和の森大会成績

ME

- 1 山口 大助 0:45:24 ES 関東 C
- 2 松澤 俊行 0:47:44 京葉 O L クラブ
- 3 鹿島田 浩二 0:48:01 渋谷で走る会
- 4 小泉 成行 0:49:09 筑波 O L 愛好会
- 5 菅原 琢 0:49:34 多摩 O L
- 6 許田 重治 0:49:40 京大 ゴンピース

WE

- 1 宮内 佐季子 0:59:35 京大 O L C
- 2 塩田 美佐 0:59:53 筑波 Mocco
- 3 渡辺 円香 1:06:36 ES 関東 C
- 4 田島 利佳 1:07:20 みちの会
- 5 岩谷 ひろみ 1:07:48 岩と谷の会
- 6 高野 由紀 1:10:36 東京 O L クラブ

森林公園ミドル大会

ME

- 1 加賀屋博文 0:30:02
- 2 鹿島田浩二 0:30:11
- 3 山口大助 0:30:17

WE

- 1 塩田美佐 0:26:19
- 2 元木友子 0:27:54
- 3 田島利佳 0:28:41